

UNESCAP (国連アジア太平洋経済社会委員会) アクタール事務局長がアジ研を初来訪

去る7月22日(火)にUNESCAP(国連アジア太平洋経済社会委員会)のシャムシャド・アクタール事務局長ほか4名がアジア経済研究所を来訪されました。ポスト2015年開発アジェンダである「持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals: SDGs)」にもとづき、UNESCAPが現在および今後重点的に取り組んでいく施策について発表されたのち、研究者との意見交換を行いました。ASEAN域内のコネクティビティの向上やSDGsの環境分野における人材育成の重要性など、幅広いテーマでのディスカッションを行いました。



ASEAN経済共同体とタイの物流インフラに関する共同研究をタマサート大学と実施

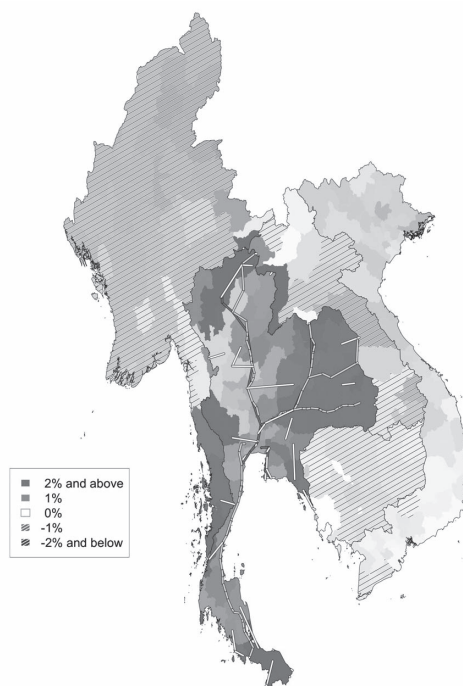
アジア経済研究所は、2013年度にタイのタマサート大学物流研究センターから依頼を受け、ASEAN経済共同体(AEC)におけるタイの物流インフラと生産ネットワークへの影響について、経済地理シミュレーションモデル(IDE-GSM)を活用した分析を行いました。その分析結果が好評であったことから、今年度もタマサート大学より依頼があり、タイのみならず、ASEAN域内のインフラ整備計画を反映した経済効果予測をIDE-GSMを活用して分析することになりました。



この一環として、7月4日(金)にバンコクにおいて公開のワークショップが開催され、アジア経済研究所からは、熊谷聡研究員が出席し、IDE-GSMの概要とASEANの将来予測についての発表を行いました。

～IDE-GSMとは～

現在、アジア経済研究所では、2005年および2010年の東アジア地域の経済地理データセットを作成し、それをもとにした2020年、2030年の東アジアの人口および産業集積の予測、それらに与える各種交通インフラ開発プロジェクトやFTA/EPAの影響を算出するための研究プロジェクトを実施しています。またIDE-GSMは、アジア総合開発計画の策定に活用されるなど高い評価を得ています。詳しくは、調査研究報告書「経済地理シミュレーション・モデルによる東アジアにおける人口・産業集積の長期予測」(http://www.ide.go.jp/Japanese/Publish/Download/Report/2013/2013_B207.html)をご参照下さい。



昨年のタマサート大学との研究成果の一部。2兆パーツのインフラ・プロジェクトの経済効果をIDE-GSMを用いてシミュレーションした。